



## 芸術の秋 モネの「色」にせまる

秋と言えば、芸術の秋です。本号では後期印象派の巨匠クロード・モネの「色」の世界にせまります。しかし「色」といってもCUDOで扱うのは作品の芸術性ではありません。モネ自身の色の感じ方や目の疾患について慈恵医大病院の眼科診療医長であり同大学の眼科学講座を持つ林孝明(当機構理事)からレポートさせていただきます。



59歳のモネの作品 1899年  
輪郭が鮮明に描かれている。

モネの描いた「睡蓮と和橋」  
*Waterlillies and Japanese Bridge*



78-82歳のモネの作品 1918-22年  
両眼ともに重度の白内障に罹患。和橋の輪郭がおぼろげに描かれ、周りの色と浸食し合っている。

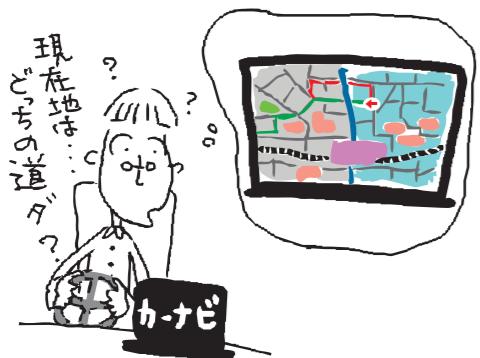
眼科医が診療する病気は多岐にわたります。その中で、白内障や緑内障については、聞いたことがあります。色感覚と眼の病気を考えた時、色感覚を規定する細胞(錐体)は網膜にあるので、網膜の病気を患えば色感覚は阻害されるのは理解できます。しかし、たとえ網膜が正常であっても、網膜に到達する色(正確には可視光)の一部が、遮られれば色感覚は阻害されます。その代表例が白内障(水晶体が濁る病気)です。印象派を代表するフランスの画家クロード・モネは日本庭園が好きだったようで、Waterlil-

lies and Japanese Bridge (睡蓮と和橋)をよく描いていました。59歳時に描かれたものでは、緑色の色彩にあふれ、橋の輪郭もよく描かれています。一方、両眼とも重度の白内障を患った78-82歳時に描かれたものでは、全体的に暖色系の色が使われ、橋の輪郭も不鮮明に見えます。これは、視力障害だけでなく、短波長光(およそ500nm以下)が水晶体の濁りに吸収され、中・長波長光の網膜に到達する割合が増えたためによるものと推察されます。

林 孝彰(当機構理事)

# 「おはよう」から「おやすみ」までのCUD問題 その3 休日編

今回は休日編です。ゆっくりと休んだり、おでかけを楽しみたいのですが、意外なところに落とし穴があります。



## カーナビ・マップ

今日はお出かけ。車で目的地に向かいます。新しいカーナビでルート検索…ムムム！ルートの表示がものすごく見づらい。時間ばかりかかってしまいます…。



## デジタルカメラ

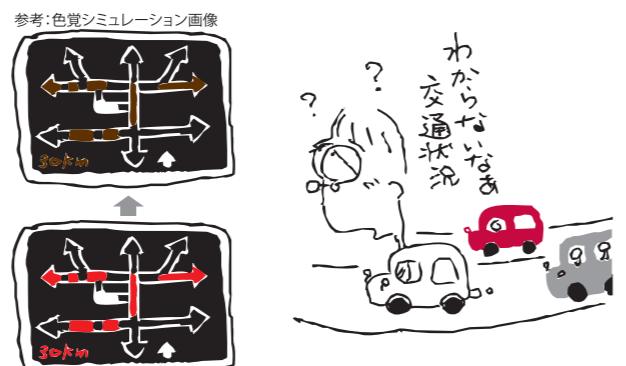
写真を撮ろうとしたところデジカメ操作がよく分からず…。説明書を読んでびっくり！操作や表示には配色による情報伝達がありました。ピントが合うと緑、合わないと赤だったのか…。家に帰ってパソコンに写真を取り込んだとき、ほとんどの写真がピンボケだったこともあります。



## パーキングエリア・ガソリンスタンド

運転時の休憩で立ち寄るパーキングエリアのトイレでは女子トイレに入りかけたことがあります…。

また、パーキングエリアは給油の重要なポイントでもあります。私にはレギュラーと軽油のノズルが同じ色に見えてしまいます。赤と緑で色分けしているようです…。最近はセルフのスタンドばかりですから、間違えた時を思うとヒヤヒヤします。



## 道路・渋滞表示

渋滞情報の電光掲示板は赤のLEDで情報を表示しているようですが…。



## 生鮮食品の色

食材を買ひにスーパー や デパートに。野菜や魚などの鮮度を、皆さんは色で見分けていますね。私はなんとなく買っています。

## 保険会社のパンフレット

生保や損保などを検討して未来設計をしよう…と思いましたが、なんだかパンフレットがよくわからない。契約額が大きい大切ななものなのに…。



## テレビの天気予報

天気の予報が何を表しているか分からずあります。降水確率5%の緑と30%の赤が同じ色に見えています。しょうがないので折り畳み傘をバッグに入れています…。

## 聞く “色彩ヘルパー”開発の取り組み

2012年7月にリリースした「色彩ヘルパー(英語名 Chromatic Color Helper)」は、iPhone, iPadで“色を見せる”ためのアプリケーションです。特に色弱の方々に使っていただきたいと思い開発しました。AppStoreから無料でダウンロードいただけます。「色彩ヘルパー」の特徴は、カメラを向ければそこにあ



ることと、たまたま仕事でiPhoneアプリを開発する機会を得たため、これをぜひ活用したいという想いからでした。最初に思い立ってからリリースまで1年近くかかりましたが、開発初期の試作アプリに関して困っていることをTwitterでツイートしたところ、「色のめがね」で有名な浅田一憲さん、CUDOの伊賀公一さんを始め、多くの方からアドバイスをいただき、また、それがきっかけになってCUDOの方々との交流も始まりました。これらの交流なくして「色彩ヘルパー」は完成できませんでした。あらためてお礼申し上げます。

皆さまからのフィードバックをもとに開発した「色彩ヘルパー」は、おかげさまでこれまで4000を超えるダウンロードをしていただきました。海外の方からもお褒めの言葉をいただいて感激しています。今後はJIS以外にも海外の色定義への対応や、色弱者が多いと言われているヨーロッパ方面のローカライズなど多くの方に使っていただけるよう改良したいと思っています。ローカライズに力を貸していただける方がいらっしゃいましたら、ぜひともよろしくお願ひいたします。

西岡大祐 1967年生まれ  
サイバネットシステム株式会社  
ビジュアリゼーション部在籍  
(「色彩ヘルパー」は個人開発アプリです)  
Twitter: @replicantnexus6  
Facebook: daisuke.nishioka



## interview

### 日本ビジネスアート株式会社

第一事業本部  
千原 裕樹

聞き手 ク):CUDO 話し手 千):千原様



- ク) 御社について、またCUDO・CUDとの関わりを教えて下さい。
- 千) 弊社は主にCSRレポートや社内報をはじめとしたコーポレートコミュニケーションツールの企画・制作支援を行っています。中でもCSRレポートは企業広報ツールの中でもマルチステークホルダーを対象とした、読まれる方の立場や視点が多種多様な媒体です。そのため、企業の考え方や活動をあらゆる読者に正確に伝えることが求められます。CUDとの関わりのきっかけは、あるお客様がCUDの考え方を積極的に取り入れ、その普及にも努められていたことでした。弊社においてもCUDを勉強するとともに、CSRレポートだけではなくその他の媒体にも展開してきました。  
伝えるべき情報やその誌面に込めた思いを正確に伝えるうえで、デザインは大きな要素を占めます。の中でも色は重要な要素の一つです。  
特にCSRレポートの制作では、すべての読者に正確に情報を伝え、必要な情報がすぐに分かることが重要と考えています。情報の格差をなくし、公平に伝えたいと思っています。
- ク) 社内・社外(依頼主)のCUDに対する印象や評価はいかがですか。
- 千) 社内での制作面においては、色弱の方の見え方がどのようなものか分からずに苦労したのを覚えています。CUDに対応させるために改善するとしてもそれが正しいのかどうか不安でした。その時に、バリアントールの存在を知り、自分やデザイナーの意識が大きく変わりました。今では、バリアントールとPC上のシミュレーションソフトを併用して確認しており、デザイナーも率先して取り組んでいます。



CUD合格されているお客様のCSRレポート

社外(依頼主)においては、配慮したい、合格したいという声が多くあります。ただ、その企業のイメージや媒体の特性を考慮すると、色使いが制限される部分もあり、CUDへの対応に躊躇されるケースもありました。ですが、最近はCUDOの方からの的確なアドバイスをいただくなどのご協力により、お客様にとってCUDの印象はかなり良くなり、満足されていると思います。先日も「こんなに簡単にCUDマークがとれるのですか」という声を頂きました。

ク) CUD検証において配慮されていることはありますか。

千) デザイン面における制限がお客様のストレスとならないよう気をつけています。事前に情報伝達における課題を考慮し、お客様にはすでに課題を解決したデザインを提案するようにしています。

ク) CUD合格のための秘訣はありますか。

千) 基本的にCUDはメソッドやテクニックではないと思っています。制作のコンセプトとそれを実現するページ構成等、編集・デザインにおける基本事項をきちんと押さえておくことが重要と考えます。CSRは企業価値向上に寄与できるものであり、社員の誇りともなります。発行意義をしっかりと持ち、それをお客様と共有すれば、自然に使用する色や図版の組み方などが見えてきます。おのずとCUDにも取り組むことができるのです。

CUD検証を受ける受けないに関わらず、常にCUDを意識した制作が大切であり、そうすることで知識や応用力もついてくるように思います。



- ク) CUDOの印象や今後の希望を教えて下さい。
- 千) 検証の精度はもとより、改善方法の提示の仕方など、常に検証方法の見直しをされていることが嬉しく思います。この点は引き続きお願ひしたいと思っています。  
また実際にCUDに配慮したデザインをするのはデザイナーです。配慮することはできても、その効果を把握することはできません。今後はCUDの意義や理念、効果をデザイナーが把握できるように、デザイナー向けのセミナーなどを開催して頂きたいですね。
- ク) 最後にCUDOに一言
- 千) これからは海外への普及も積極的に行ってほしいです。何卒よろしくお願ひいたします。

## 認証取得

最近CUDマークを取得した事例をご紹介致します(順不同)

### 株式会社NTTデータ

“NTTデータグループCSR報告書2012”

CSR(企業の社会的責任)に関わる情報開示の一環およびステークホルダーとのコミュニケーションツールの一つとして毎年発行しているレポート。(印刷物)  
<http://www.nttdata.com/jp/ja/corporate/csr/report/index.html>

### ライフ株式会社

“ライフ2013年 DIARY & SCHEDULE”

オフィースでのスケジュール管理に最適な卓上カレンダー。シンプルで美しく、誰にでも分かりやすい配色になっている。(印刷物)

<http://life-st.jp/conts/>

### 株式会社日立製作所

“日立グループサステナビリティレポート2012ダイジェスト”

日立グループサステナビリティレポートは、CSR報告書と環境報告書を一冊にし、非財務情報を経営とのかかわりを中心に情報開示したもので、本レポートはそのダイジェスト版。(印刷物)

<http://www.hitachi.co.jp/csr/>

### 三菱電機株式会社

“ルームエアコン「ハイブリッド霧ヶ峰」

ZW/ZXV/HXVシリーズ 2013年度モデル”

部屋から人がいなくなった時を見逃さず、すぐにムダな電気をカットする「スマートSTOPシステム」を搭載したエアコン。(機器類)

<http://www.mitsubishielectric.co.jp/>

### 能美防災株式会社

“火災受信機FAPJ/FCSJ105シリーズ(進P III/一般型)”

建物などを火災監視し、発生場所・状況の表示やベル鳴動するもので、表示・操作を「見やすく、分かりやすく、使いやすく」した装置。建物内の防災センターなどに設置する。(機器類)

<http://www.nohmi.co.jp/>

## お知らせ

### 国際ユニバーサルデザイン会議参加のご報告

2012年10月12～14日に福岡市の福岡国際センター、福岡国際会議場にて開催された「第4回国際ユニバーサルデザイン会議 2012 in 福岡」に参加いたしました。第4回目のテーマは「安心・安全」。本年も様々な企業が出展し、九州というアジア諸国の近い、活気あるこの地でUDをプレゼンテーションしていました。当機構の大きな収穫としては、各企業の展示ブースにおいて、沢山のCUDマークを発見できましたこと。UDの祭典でも「色」のUDが実際的に普及してきたことを確認できました。

当機構のブースには地元業界



団体、教員、社会見学の小学生など沢山の訪問があり、CUDのお話を聞く機会に恵まれました。また、会場にてCUDのワークショップを行い、来場者やブース出展企業の方々からCUDの問題提起や改善提案が話されました。今回もとても実りのあるワークショップとなりました。 (事務局)

### ユニバーサルキャンプ参加のご報告

9月15～17日の2泊3日でおこなわれたユニバーサルキャンプin八丈島にCUDO事務局から2名が参加しました。

このイベントは、視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由など色々な立場の人方が集い、それぞれの違いを“多様性 = ダイバーシティ”としてとらえ、お互いを知ることをテーマとして開かれています。今年で8回目となります。複数



回参加していても“内部障がい(心臓、肝臓や呼吸機能など体の内部の障がい)”とは具体的にどんな事かあらためて知ることができ、当事者が自分の声で発信するリアルさ、迫力のようなを感じることができます。このキャンプの意義深いところです。事務局から参加の2名も色弱者本人という立場でプレゼンする機会をもらい、色覚の多様性、カラーユニバーサルデザインについての啓発の一端を担うことができました。

八丈島はまさに南国特有の天気で、晴れと雨とが1日のあいだに何度も繰り返され、9月半ばながら真っ黒に日焼けしてしまいました (事務局)

SEASON IN THE CUDO No.9 秋号 2012年10月24日発行  
発行元:NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-1-5昌平橋ビル3階  
TEL/FAX: 03-6206-0678  
発行人:武者廣平